

# Petromax HK500の メンテナンスマニュアル Maintenance manual for HK500

## 組立編

### Petromax圧力式灯油ランタンHK500を 長く安全にご使用頂くために

このマニュアルには、200以上の部品から構成されるPetromax HK500をご自身でメンテナンスして長く安全にお使いいただくための組立手順を掲載しており、初めての方でもこのマニュアルに沿って作業を進めることでHK500の構造を確認しながら安心して組立作業を実施していただくことができます。

手順の途中には各パーツのメンテナンスを実施しながら組立作業を進めていきますので燃焼不安定や定期的なメンテナンスのガイドとしてもご利用いただけます。

先に実施した【分解編】と今回の【組立編】にはたくさんの作業工程がありますが、HK500マイスターを目指し、作業を進めてみてください。

### 組み立てをする前にパーツを 綺麗にしましょう！

ペトロマックス専用の  
研磨剤（ポリッシュ）で  
各パーツを磨いてみましょう

使用商品；  
[ポリッシュ](#)

お  
手  
入  
れ  
の  
チ  
ェ  
ッ  
ク  
項  
目

CHECK  
01

ヘッドカバー



サポートフレーム

CHECK  
02



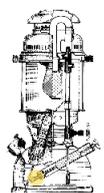
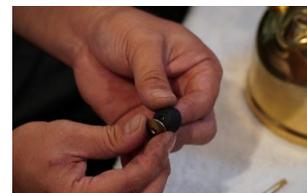
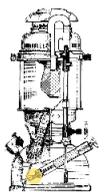
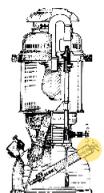
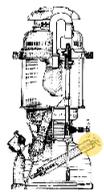
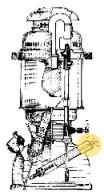
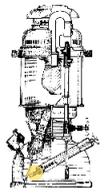
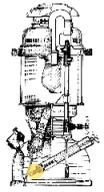
タンク

CHECK  
03



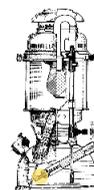
# 組み立て手順

- 1 | ポンプバルブ(#10)付属の鉛パッキン(ガスケット)を取り付けます  
※鉛パッキン(ガスケット)(#90)とは別パーツです。  
厚みや大きさが異なるのでご注意ください  
入手可能パーツ: [ポンプバルブ\(#10\)](#)
- 2 | ポンプシリンダー(#98)に鉛パッキン(ガスケット)を取り付けたポンプバルブ(#10)を奥まで入れ、マイナスインドライバーで時計回りに回して、締め込みます  
※しっかりと締め込まないとタンク内の燃料や圧が逆流して漏れてしまうので注意しましょう  
入手可能パーツ: [ポンプ\(#6\)](#)  
[ポンプバルブ\(#10\)](#)
- 3 | ポンプロッド(#43)のネジにロックスクリュー(#41)の広い面を下にして取り付けます  
※ポンプロッド(#43)両端のどちらのネジにも取り付け可能です  
入手可能パーツ: [ポンプ\(#6\)](#)
- 4 | ロックスクリュー(#41)を取り付けた箇所にポンプノブ(#40)を差し込み、時計回りに回して締め込みます  
入手可能パーツ: [ポンプ\(#6\)](#)
- 5 | ③④とは逆側のポンプロッド(#43)にポンプキャップ(#42)を差し込みます  
※向きにご確認ください  
入手可能パーツ: [ポンプ\(#6\)](#)
- 6 | ⑤に続けて、ポンプロッド(#43)にポンプスプリング(#44)を入れます  
入手可能パーツ: [ポンプ\(#6\)](#)
- 7 | ⑥に続けて、ポンププレート(#45)、革パッキン(#46)の順にポンプロッド(#43)へ差し込みます  
入手可能パーツ: [ポンプ\(#6\)](#)  
[革パッキン\(#46\)](#)



- 8 | ⑦に続けて、革パッキン(#46)の内側に  
ワッシャー、ポンプナット(#46)の順で取り付けます

入手可能パーツ: [ポンプ\(#6\)](#)  
[革パッキン\(#46\)](#)  
[革パッキン用ワッシャー+ナット](#)



### 確認しましょう

これでポンプ(#6)の全パーツが装着完了します  
※パーツの取り付け違いはポンピングの不具合を招くためご注意ください



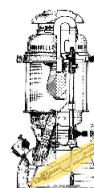
### 確認しましょう②

革パッキン(#46)が乾燥していないか確認しましょう。  
革専用のオイル(ミンクオイル等)をこまめに塗り込み、  
柔らかい状態を保ちましょう  
※乾燥した状態でポンピングするとタンクへの圧力が正常にかからなく  
なる場合があります。また、革パッキンの破損の原因になります。



- 9 | ポンプ(#6)の先に付いた革パッキン(#46)を  
タンク(#118)に差し入れたらポンプキャップ(#42)を  
時計回りに回し、取り付けます。ポンプノブ(#40)は  
奥まで押し込んでおきましょう

入手可能パーツ: [ポンプ\(#6\)](#)  
[革パッキン\(#46\)](#)



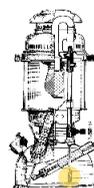
### 次の手順の前に確認しましょう

ジェネレーター下部(#153)内部に  
ススや不純物があると異常燃焼の原因となります。  
しっかり取り除いておきましょう



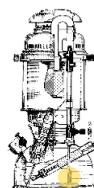
- 10 | 3つのパーツで構成された  
ジェネレーターバルブ(#196)を取り付けます

入手可能パーツ: [ジェネレーターバルブ\(#196\)](#)



- 11 | ジェネレーターバルブスプリング(#194)に  
ジェネレーターバルブガスケット(#193)を取り付け、  
ジェネレーターバルブジャケット(#195)に入れます

入手可能パーツ: [ジェネレーターバルブ\(#196\)](#)



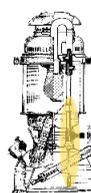
### 確認しましょう

ジェネレーターバルブ(#196)完成の図  
※3つのパーツを正しい順番で取り付けないと  
燃料が逆流して漏れてしまうので注意が必要です



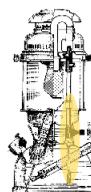
- 12 ジェネレーター下部 (#153) に  
ジェネレーターバルブ (#196) を取り付け、  
手で時計回りに回して締めます

入手可能パーツ: [ジェネレーター下部 \(#153\)](#)  
[ジェネレーターバルブ \(#196\)](#)



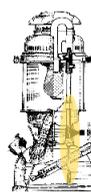
- 13 ジェネレーター下部 (#153) を持ちながら  
マイナスドライバーでジェネレーターバルブ (#196) を  
しっかりと取り付けます

入手可能パーツ: [ジェネレーター下部 \(#153\)](#)  
[ジェネレーターバルブ \(#196\)](#)



- 14 ジェネレーター下部 (#153) に  
鉛パッキン (ガスケット) (#90) を取り付けます

入手可能パーツ: [ジェネレーター下部 \(#153\)](#)  
[鉛パッキン \(ガスケット\) \(#90\)](#)



### ポイント

鉛パッキン (ガスケット) (#90) は一度使用すると潰れて  
再利用ができません。

新しいパッキンを必ず準備しましょう

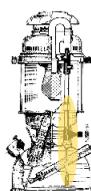
※再利用は圧や燃料漏れの原因となります

入手可能パーツ: [鉛パッキン \(ガスケット\) \(#90\)](#)



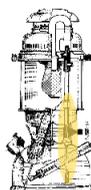
- 15 タンク (#118) に  
ジェネレーター下部 (#153) を取り付けます

入手可能パーツ: [ジェネレーター下部 \(#153\)](#)



- 16 ジェネレーター下部 (#153) を  
大きなレンチなどでしっかりと締め込みます

入手可能パーツ: [ジェネレーター下部 \(#153\)](#)



### 確認しましょう

ホールエキセントリック (#114) を取り付ける穴の中心と  
タンクに刻印されているPETROMAXの【O】の中心が  
直線に装着されているか確認しましょう



### ポイント

手で回しきれない時はこの画像のように  
テコの原理を使って回してみましょう。

緩みは燃料漏れの原因となるのでしっかりと締め込みます



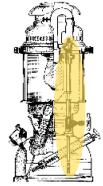
## 次の手順の前に確認しましょう

コンダクティングロッドコンプリート(#104)にススが  
付着していると燃料供給の妨げとなり、異常燃焼の原因と  
なります。コンダクティングロッド(#101)が汚れていたら  
サンドペーパーで該当箇所を削り、清掃しましょう



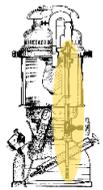
- 17 | コンダクティングロッドコンプリート(#104)の先端に穴が  
ある側を上にしてジェネレーター下部(#153)に入れます

入手可能パーツ: [コンダクティングロッドコンプリート \(#104\)](#)  
[ジェネレーター下部 \(#153\)](#)



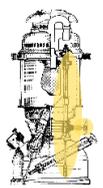
- 18 | ガイドピース(#103)の窪んでいる部分が  
ホールエキセントリック(#114)を取り付ける穴から  
見えるようコンダクティングロッドコンプリート(#104)  
を入れます

入手可能パーツ: [コンダクティングロッドコンプリート \(#104\)](#)  
[ホールエキセントリック \(#114\)](#)



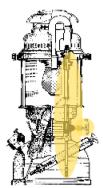
- 19 | コンダクティングロッドコンプリート(#104)をタンク側に軽く  
押し込みながら、グリップホイール(#111)の矢印を  
上向きにしてジェネレーター下部(#153)に取り付けます

入手可能パーツ: [コンダクティングロッドコンプリート \(#104\)](#)  
[グリップホイール \(#111\)](#)  
[ホールエキセントリック \(#114\)](#)



- 20 | グリップホイール(#111)の矢印は上向きのまま  
付属の専用スパナ(#66)でエキセントリック  
フィッティング(#107)を時計回りに回し、  
ジェネレーター下部(#153)に取り付けます

入手可能パーツ: [専用スパナ \(#66\)](#)  
[グリップホイール \(#111\)](#)  
[ホールエキセントリック \(#114\)](#)  
[ジェネレーター下部 \(#153\)](#)



## ポイント

正しく装着するとコンダクティングロッド(#104)を上  
に引き上げても抜けず、またグリップホイール(#111)の  
回転と連動してコンダクティングロッド(#104)が  
上下に動くようになります



### 次の手順の前に確認しましょう①

ジェネレーター (#152) 内部のススや不純物は異常燃焼の原因となるのでしっかり取り除きます



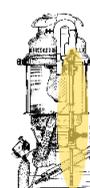
### 次の手順の前に確認しましょう②

燃料漏れを防ぐため、ジェネレーター下部 (#153) とジェネレーター (#152) の接合部にキズがないか、ナットはきちんと回るか確認しましょう。



- 21** | ジェネレーター下部 (#153) に  
ジェネレーター (#152) を取り付け、  
ナットをしっかりと締め込みます

入手可能パーツ: [ジェネレーター下部 \(#153\)](#)  
[ジェネレーター \(#152\)](#)



### ポイント

ジェネレーター (#152) 上部の丸い輪の中心に  
タンク (#118) 中央部のセンタースクリュー (#14) を  
差し込む穴があるか、またその状態でジェネレーターの  
ナットが固く締まっているか確認しましょう



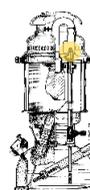
- 22** | グリップホイール (#111) の矢印が上向きになっているか  
確認したら、クリーニングニードル (#68) を  
コンダクティングロッドコンプリート (#104) の  
先端に取り付けます

入手可能パーツ: [クリーニングニードル \(#68\)](#)  
[コンダクティングロッドコンプリート \(#104\)](#)  
[グリップホイール \(#111\)](#)



- 23** | 取り付けしたクリーニングニードル (#68) を  
付属のニードルキー (#119) で締め込みます

入手可能パーツ: [クリーニングニードル \(#68\)](#)  
[ニードルキー \(#119\)](#)



- 24** | グリップホイール (#111) の矢印を下向きにするのに  
連動してクリーニングニードル (#68) も下に沈みます。  
その後、ニップル (#50) をジェネレータ (#152) 上部に  
取り付け、手で時計回りに回します

入手可能パーツ: [ニップル \(#50\)](#)  
[クリーニングニードル \(#68\)](#)  
[グリップホイール \(#111\)](#)      [ジェネレーター \(#152\)](#)



- 25 付属の専用スパナ(#66)で  
ニップル(#50)を固く締めこみます

入手可能パーツ: [専用スパナ \(#66\)](#)  
[ニップル \(#50\)](#)



### ポイント

グリップホイール(#111)を回転させると、  
コンダクティングロッドコンプリート(#104)と連動して  
ニップル(#50)の穴からクリーニングニードル(#68)の  
針が出し入れします



### 次の手順の前に確認しましょう

ソケット(チェックパッキン&スクリュー)(#229)を  
先端のゴムパッキンが硬化していないか確認しましょう



- 26 予熱バーナー用レバー(#223)に  
ソケット(チェックパッキン&スクリュー)(#229)を  
取り付けて固定します

入手可能パーツ: [クイックライター\(予熱バーナー\) \(#226\)](#)  
[ソケット\(チェックパッキン&スクリュー\) \(#229\)](#)



### 次の手順の前に確認しましょう

予熱バーナーコネクター(#224)の中央の穴  
(灯油が通る穴)と両サイドの穴(空気圧が通る穴)に  
付属の掃除針(#180)の針を差し込み  
クリーニングしましょう



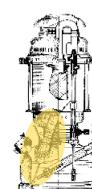
- 27 予熱バーナーコネクター(#224)に  
時計回りで回しながらホースを取り付けます

入手可能パーツ: [クイックライター\(予熱バーナー\) \(#226\)](#)



- 28 予熱バーナーコネクター(#224)に  
予熱バーナーレバー(#223)を取り付けます

入手可能パーツ: [クイックライター\(予熱バーナー\) \(#226\)](#)



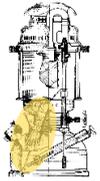
- 29 続けてノズルナット(#222)を取り付けます。  
※この段階ではノズルナットの増し締めは必要ありません

入手可能パーツ: [クイックライター\(予熱バーナー\) \(#226\)](#)



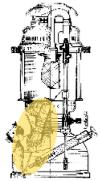
- 30 予熱バーナーコネクター(#224)に  
予熱バーナーノズル(#221)を取り付け、  
固く締め込みます

入手可能パーツ: [クイックライター\(予熱バーナー\)\(#226\)](#)



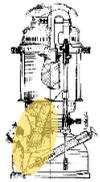
- 31 予熱バーナーコネクター(#224)のホース部分に  
新しい鉛パッキン(ガスケット)(#90)を入れます

入手可能パーツ: [鉛パッキン\(ガスケット\)\(#90\)](#)  
[クイックライター\(予熱バーナー\)\(#226\)](#)



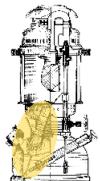
- 32 予熱バーナー(#226)を  
タンク(#118)に差し込みます

入手可能パーツ: [クイックライター\(予熱バーナー\)\(#226\)](#)



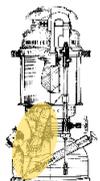
- 33 付属の専用スパナ(#66)でタンク(#118)に  
予熱バーナー(#226)を締め込みます

入手可能パーツ: [専用スパナ\(#66\)](#)  
[クイックライター\(予熱バーナー\)\(#226\)](#)



- 34 付属の専用スパナ(#66)で予熱バーナー(#226)に  
ノズルナット(#222)を締め込みます

※締め込む際は予熱バーナー用レバー(#223)の向きに注意しましょう  
入手可能パーツ: [専用スパナ\(#66\)](#)  
[クイックライター\(予熱バーナー\)\(#226\)](#)



- 35 予熱バーナー(#226)に  
フレームチューブ(#220)を取り付けます

入手可能パーツ: [フレームチューブ\(#220\)](#)  
[クイックライター\(予熱バーナー\)\(#226\)](#)



### 確認しましょう

フレームチューブ(#220)の取り付け後、  
予熱バーナーレバー(#223)の上げ下げが  
スムーズにできるか確認しましょう



### 次の手順の前に確認しましょう

注油口キャップ用ゴムパッキン(#11)の状態次第では、  
漏れの原因を引き起こす可能性があります。  
硬化していないか?亀裂は無いか?を確認しましょう



- 36 注油口キャップ用ゴムパッキン(#11)を  
圧力計付き注油口キャップ(#149)の裏面に  
入れて  
タンク(#118)に取り付けます

入手可能パーツ: [注油口キャップ用ゴムパッキン \(#11\)](#)  
[圧力計付き注油口キャップ \(#149\)](#)



### やってみましょう

ここまでの作業の工程が正しいかを確認するために、燃料を入れてポンピングをします。  
ポンピングをすることで、燃料や圧が漏れても不具合箇所を特定しやすくなります。

以下3点を確認したら燃料を入れてポンピングしましょう。

- ①グリップホイール(#111)の矢印は上向きですか？
- ②圧力計付き注油口キャップ横の圧力調整スクリューが時計回りでしっかり締まっていますか？
- ③予熱バーナーレバー(#223)が上がっていますか？



- 37 サポートフレーム(#121)を取り付けます

入手可能パーツ: [サポートフレーム \(#121\)](#)



- 38 センタープレート(#122)のクボミに注意しながら  
取り付けます。参考:右図

入手可能パーツ: [センタープレート \(#122\)](#)



- 39 予熱カップ(#35)のクボミに注意しながら  
取り付けます。参考:右図

入手可能パーツ: [予熱カップ \(#35\)](#)



- 40 サポートフレーム(#121)にインナーチムニー  
コンプリート(#125)を装着します。本体に歪みがなく、  
インナーチムニーコンプリート(#125)の  
スムーズな着脱ができるかを確認してから  
センタースクリュー(#14)を締め込みましょう。

センタープレート(#122)が歪むため力加減にはご注意ください

入手可能パーツ: [インナーチムニー \(#117\)](#)  
[サポートフレーム \(#121\)](#)



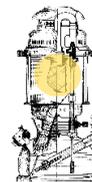
- 41 ホヤガラス(#74)を取り付けます

入手可能パーツ: [ホヤガラス \(#74\)](#)



- 42 | ミキシングチューブ(#33)に  
ガスチャンバー(#34)を取り付けます

入手可能パーツ：[ミキシングチューブ\(#33\)](#)  
[ガスチャンバー\(#34\)](#)



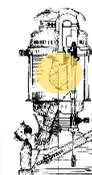
### 次の手順の前に確認しましょう

セラミックノズルの穴の目詰まりや  
本体にひび割れなどの破損がないか確認しましょう



- 43 | ガスチャンバー(#34)にセラミックノズル(#3)を  
しっかりと取り付けます

入手可能パーツ：[セラミックノズル\(#3\)](#)  
[ガスチャンバー\(#34\)](#)



### ポイント

マントル(#4)を取り付ける前にマントル全体を  
手で揉んでおくと、点灯した際に丸いマントルに  
なりやすいのでお勧めです



- 44 | セラミックノズル(#3)のくびれにマントル(#4)を取り付け、  
インナーチムニーコンプリート(#125)を取り付けます

入手可能パーツ：[セラミックノズル\(#3\)](#)  
[マントル\(#4\)](#)



- 45 | サポートフレーム(#121)にハンドルを取り付けます

入手可能パーツ：[サポートフレーム\(#121\)](#)



### 確認しましょう

ミキシングチューブ(#33)のガタつきがないか、  
また、ミキシングチューブ(#33)とニップル(#50)の  
隙間が付属の専用スパナ(#66)に刻印された  
【CP500】位置の幅が高さになっているか確認しましょう

※ただし、本体には個体差がありますので、あくまでも目安としてご認識おきください



- 46 | ヘッドカバー(#123)を取り付けます

入手可能パーツ：[ヘッドカバー\(#123\)](#)



完成です！お疲れさまでした。  
最後に正常に点灯するか？各部に漏れは無いか？など  
改めて確認するために必ず試点火をしましょう！！